

第3次さぬき市男女共同参画プラン策定に関する

中学生ワークショップ 報告書

日 時	令和5（2023）年8月4日（金）13:20～15:35
場 所	さぬき市役所3階302会議室
参加人数	生徒18名
目的	「第3次男女共同参画プラン」の策定にあたって、中学生を対象に、男女共同参画に関する意見交換を通して、自分たちの将来について考えてもらうとともに、これからのさぬき市の取組に役立てることを目的として実施しました。
タイム スケジュール	13:20～ 開会（事務局からの説明） 13:25～ 概要説明（香川大学ダイバーシティ推進室 特命准教授・コーディネーター）「男女共同参画の現状～さぬき市の中学生アンケートを振り返って～」 13:55～ アイスブレイク（グループ内自己紹介含む） 14:05～ ワークショップ「テーマ1：男女の役割分担について」 ① 自分の考えを整理して、グループで話し合う ② グループでまとめた意見を発表する ③ 他のグループの発表を聞き、気づいたことを再度話し合う 14:50～ ワークショップ「テーマ2：将来について」 ① 自分の考えを整理して、グループで話し合う ② グループでまとめた意見を発表する ③ 他のグループの発表を聞き、気づいたことを再度話し合う 15:20～ 本日のゴール テーマ1とテーマ2を通して、プランに反映させたい意見を3つ選ぶ 15:22～ グループでまとめた意見を発表する 15:25～ ワークショップ総括「性の多様性、D&I（ダイバーシティ&インクルージョン）、NWE Cリーフレット紹介、参考文献紹介、夏休み講座の案内、これからのプラン策定に向けて」 15:35 閉会 アンケート記入
グルーピング	1テーブル4～5名の班に分かれ、4班に分かれて作業を行いました。

ワークショップの進行にあたっては、参加者である生徒に「男女共同参画」の趣旨を理解してもらうため、香川大学ダイバーシティ推進室の黒澤あずさ先生により、男女共同参画社会とは何か、世界や日本の状況、そして昨年度実施した中学生アンケートの結果等から、家庭生活における男女の役割分担や進路についての現状を解説していただきました。

続いて、アイスブレイクを行い、その後ワークショップのテーマである「男女の役割分担について」「将来について」に基づき、各自の考えをふせんに書き込み、グループ内で意見交換をした後、グループごとに発表を行いました。その後、他のグループの発表を聞いた上で、再度グループ内で意見交換をし、まとめた意見を発表しました。

※ ワークショップとは

○ 参加者が協力しながら知恵を出し合い、その成果をまとめていく作業のことで、一般的な会議と異なり、参加者自らが自由に意見を出し、協力しながらまとめあげることが目標としています。参加者一人ひとりが目標を共有し、同じ方向に向かって作業を進めていきます。

男女共同参画社会とは

男女が、社会の対等な構成員として、
 自らの意思によって社会のあらゆる分野に
 おける活動に参画する機会が確保され、
 もって男女が均等に政治的、経済的、社会的
 及び文化的利益を享受することができ、
 かつ、共に責任を担うべき社会

*男女共同参画社会基本法
 ⇒ひとりひとりにとって生きやすい社会



1 概要説明

「男女共同参画の現状～中学生アンケート結果の振り返り～」

黒澤先生の解説を踏まえ、男女の家庭生活における役割分担や将来についてなど、身近なところから男女共同参画について皆さんに考えてもらいました。

「夫婦が協力して」という理想から現実がかけ離れていることを知り、若いときから男女の役割を考えることが、大人になって理想に近づくことになることを教わりました。

【 アンケート結果の概要 】

- 男女の平等意識（社会全体）について、中学生アンケート結果では32%が「男性優遇」と答え、市民アンケート結果の半分となっている。「平等」も30%ほどだった。最も多かったのは「わからない」となっている。
- 家庭生活での役割分担では、日常の家事（食事のしたくやあとかたづけ、そうじ、洗たくなど）は主に女性の家族の割合が多くを占めている。
- 市民アンケート結果では、平日、家事に費やす時間について、男性は「1時間未満」が最も多く、女性は「2～3時間未満」「3～5時間未満」が多い。共働きでも家事に関わらない人が多数いる。
- 中学生アンケート結果では「ごみ出し」を除き、家の手伝いをするのは女性が多い。
- 中学生アンケート結果では、文系・理系タイプについて、女性は「文系タイプ」、男性は「理系タイプ」の割合がそれぞれ高い。

2 アイスブレイク

名刺大の白い紙に、今日のグループワークで呼ばれたい名前を書いて名札にします。そしてA5の紙に、自分たちが住んでいる地域の「推し・自慢したいこと・場所・もの」などを書きます。それが終わったら、1人1分で呼ばれたい名前、中学校名、学年、地域の「推し」を含めて自己紹介を行いました。

アイスブレイクにより、和んだ場となりました。

ワークショップに入る前に アイスブレイク（お互いを知ろう！）

- ①まず名刺大の白い紙に、今日呼ばれたい名前を書いて、胸につけてください。
- ②A5の紙に、自分たちの住んでいる地域・中学の推し・自慢したいこと・場所・ものなどを一つ書いてください。後で集めて、ホワイトボードに貼り、みんなで共有します。
- ③呼ばれたい名前、中学名、学年、地域の推しを含めて一人1分で自己紹介をしてください。



3 ワークショップ

今回のワークショップでは、各自の考えをふせんに記入し、グルーピングする方法を用いました。各自の頭の中にあるぼんやりとした考えを、直接、紙の上に表現することによって、その考えをはっきりさせる効果があります。

家庭や学校、地域、その他の場面で男女の役割分担について、そして将来について、生徒がどのように認識しているか、意見やその解決策を自由に出し合い、多様な意見をグルーピングしながら議論を深めました。

(1) グループワーク（グループ内での意見交換）

家庭や学校、地域、その他の場面における男女の役割分担について、また、将来について感じていることを水色のふせんに、解決策を黄色のふせんに記入し、それを模造紙に貼り付ける作業を行いました。そして、各自の考えについて意見交換を行った後、グループごとに意見をまとめて発表しました。

テーマ「1 家庭生活の役割分担について」考えよう

【1班】

グループの意見

【家庭で】

- 家事や育児は女性がしていることが多い。

解決策

- 男女交代で分担を変えていく。
- 家の中での役割分担をする。
- 曜日や家事の種類ごとに役割を決めておく。
- 自分がしていないことにも進んで取り組む。

【学校で】

- 男女の役割の差はあまり感じない。
- 委員や委員長などは女子の方が積極的に行っているイメージがある。
- 男の校長先生が多いと感じる。

【地域や職場で】

- 男が町長や市長になっていることが多い。
- 力仕事は男女で決まっている感じはしない。



ふせんに書かれた意見

【家庭で】

- ・ 家事や育児は女性がしていることが多い。
- ・ 女が家で家事をしている。
- ・ 家事は母がすることが多い。
- ・ 料理は女性がすることが多くあると思う。

解決策

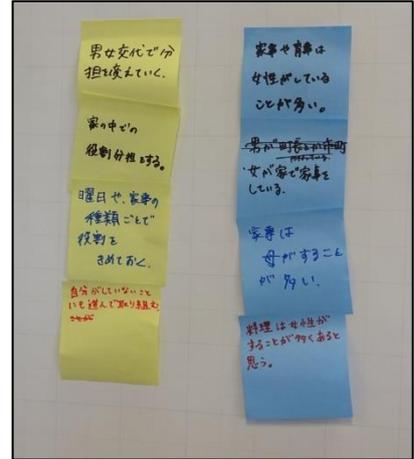
- ・ 男女交代で分担を変えていく。
- ・ 家の中での役割分担をする。
- ・ 曜日や家事の種類ごとに役割を決めておく。
- ・ 自分がしていないことにも進んで取り組む。

【学校で】

- ・ 学校では男女の役割の差はあまり感じない。
- ・ 学校内の委員や委員長などは女子の方が積極的に行っているイメージがある。
- ・ 男女で分かれることが多い。
- ・ 男の校長先生が多い。
- ・ 委員や係決めで、男女の人数制限がある。

【地域や職場で】

- ・ 男が町長や市長になっている。
- ・ 力仕事は男女で決まっている感じはしない。



【2班】

グループの意見

【1】

- 男女で制服が違う。
- 男女で小学生の帽子が違う。

解決策

- 自由にする。
- 志度中学校では、生徒総会で体操服登校を許可した。

【2】

- 女子に対して髪型の指定が厳しい。

解決策

- 長尾中学校では、生徒総会で校則が見直された。

【3】

- 男子に厳しい先生がいる。
- 「女の子だったら、あぐらをかくな」と言われる。

解決策

- 男子だから、女子だからと決めつけない。

ふせんに書かれた意見

【1】

- ・ 男女で制服が違う。
- ・ 小学生の帽子が男女で違う。

解決策

- ・ 生徒総会で体操服登校を許可した。
- ・ 自由にする。

【2】

- ・ 女子に対して髪型の指定が厳しい。

解決策

- ・ 生徒総会で校則が見直された。

【3】

- ・ 男子に厳しい先生がいる。
- ・ 「女の子だったら、あぐらをかくな」と言われる。

解決策

- ・ 男子とか女子とかを決めつけない。

【3班】

グループの意見

【家事】

- だいたいの家事は女の人とする。

解決策

- 協力する。
- 当番を決める。

【遊ぶ場所】

- 男子は外で遊ぶ人が多く、女子は少ない。
- 女子は勉強できるイメージ、男子は運動ができるイメージがついている。

解決策

- 皆で遊べる雰囲気をつくる。
- お互いを理解して得意なことを尊重し合う。
- 自分たちで一緒にできるような役割にしてみる。

【荷物運び】

- 男子は力仕事、女子は細かい仕事をしていると思う。

解決策

- 一緒に運ぶ。
- 協力する。
- お互いに持ち、運べるようにする。

【仕事】

- 受付や事務などは女性が多いイメージがある。

解決策

- 同じ割合の男女を同じ部署、業務に置く。
- 全体的に「男性と女性に壁がある」というような意見になった。

ふせんに書かれた意見

【家事】

- ・ だいたいの家事は女の人とする。
- ・ 母がほとんどの家事をしている。

解決策

- ・ 協力する。
- ・ 当番などを決める。

【遊ぶ場所】

- ・ 男子は外で遊ぶ人が多く、女子は少ない。
- ・ 女子・勉強できるイメージ、男子・運動ができるイメージ
- ・ 男女に不思議な壁があって、共に役割を果たしづらい。

解決策

- ・ 皆で遊べる雰囲気をつくる。
- ・ お互いを理解して得意なことを尊重し合う。
- ・ 一緒にできるような役割に自分たちでしてみる。

【荷物運び】

- ・ ワーク等重たい物を男子が運び、女性が配る。
- ・ 女子・細かい仕事 男子・力仕事
- ・ 男の人は力仕事が多い。
- ・ ほとんどの男性が物運びやごみ出しなどの仕事を行っている。

解決策

- ・ 一緒に運んだりして、皆で協力する。
- ・ 協力して仕事をする。
- ・ 互いに持ち運べるようにする。

【仕事】

- ・ 施設の受付、事務的な仕事をしている人は女性が多いイメージがある。

解決策

- ・ 同じ割合の男女を同じ部署、業務に置く。
- ・ 学校での役割は女子の方が積極的



【4班】

グループの意見

【家事】

- 女性の方が男性より家事を行っている。

解決策

- 家族全員ができるように当番を決める。
- 時間があるときには、洗濯等自分にできそうなものを家族全員が探してやってみる。
- できることをしてみる。

【学校】

- 女性の校長先生が少ない。
- 行事などで人を集めるとき、男性より女性の方が大分多く集まる。

解決策

- 男性の方が少ないので、男性が一人一人周りに流されないようにする。

ふせんに書かれた意見

【家事】

- ・ 父親より母親の方が育児をしている。
- ・ 女性が家事をするのがあたりまえになっている。
- ・ 自分の家では家事のほとんどを母や祖母がやってくれている。
- ・ 食事を準備するのはすべてお母さんがしている。
- ・ 食器を洗ったり夕食を作ったりするのは、母や祖母が多い。

解決策

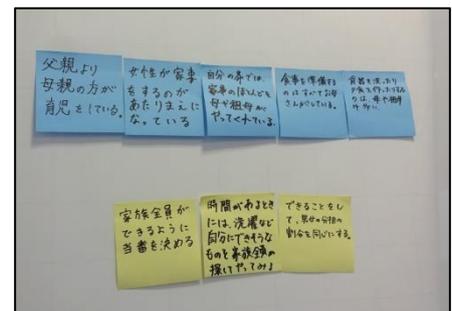
- ・ 家族全員ができるように当番を決める。
- ・ 時間があるときには、洗濯など自分にできそうなものを家族全員が探してやってみる。
- ・ できることをして、男女の分担の割合を同じにする。

【学校】

- ・ 行事などで人を集めるとき、男性より女性の方が大分多く集まる。
- ・ 女性の校長先生は少ない。

解決策

- ・ 男子一人一人が周りに流されないようにする。



テーマ「2 将来について」考えよう

【1班】

グループの意見

- 全員共通で、高校に行って大学まで進学したいという意見だった。そのために、自分の将来の夢や目標、したいことを見つけて勉強するという意見が出た。
- 将来のことに 대해서는、自分のしたいことをする、医療関係の仕事に就きたい、この企業に就職したい、社長になりたい、お金持ちになりたいという意見で、そのために周りに流されないという意見が出た。
- 働きながら幸せな家庭を築く、結婚したいという意見も出た。

ふせんに書かれた意見

- ・ 働きながら、幸せな家庭を築く。
- ・ 結婚したい。
- ・ 自分のしたいことをする。
- ・ 医療関係の仕事に就きたい。
- ・ ○○に就職したい。
- ・ 社長になりたい。
- ・ お金持ちになりたい！
- ・ 高校・大学まで進学したい。
- ・ 大学まで進学したい。
- ・ 大学まで行きたい。
- ・ 高校に進学して大学に行く。

解決策

- ・ パートナーをつくる。
- ・ 様々な情報を集める。
- ・ 周りに流されない。
- ・ コミュニケーション能力を高める。
- ・ 自分の好きなことを大切にする。
- ・ 自分の夢や目標、したいことを見つける。
- ・ 勉強する。
- ・ 社会に出ても恥じない礼儀を身に付ける。



【2班】

グループの意見

- 二つの意見に分かれた。
- 一つ目は自分の将来の夢に近い勉強を高校で学びたい、そのために今勉強を頑張っていきたい高校に行く、であった。
- 二つ目は、将来の仕事のことで、子どもができたなら仕事は辞めたい、プライベートを大事にしながら働きたい、ここに就職する、という意見が出た。そのために、人が多い会社に勤めたい、ブラック企業ではない職業に就く、体力をつけるという意見が出た。

ふせんに書かれた意見

- ・ 自分の将来の夢に近い勉強を高校で学びたい。
- ・ 子どもができたなら、仕事は辞めたい。
- ・ プライベートを大事にしながら、働きたい。
- ・ ○○に就職する。

解決策

- ・ 今、勉強を頑張っていきたい高校に行く。
- ・ 人が多い会社に行く。
- ・ ブラック企業ではない職業に就く。
- ・ 体力をつける。

【3班】

グループの意見

- 理系に進む進路、文系に進む進路、専門学校に進む進路や大学、他の県で働きたいという意見が出た。
- 理系では、理系の道に進みたい、理系でエンジニアの仕事をしたいが少し不安、得意なことを生かせる環境のある職場が理想という意見が出た。そのために学校のことについて詳しく書かれ、生徒の意見のついたパンフレットのようなものを見てみたい、今のうちにできる準備や勉強をするという意見が出た。
- 文系では、まずは通いやすい学校に進学するという意見が出た。
- 専門学校では男女の仕事に関係がなく、興味のある学校に行くという意見が出た。
- 大学では勉強するという意見が出た。
- 他の県で働きたいという意見では、そのために他の県にも目を向けてみるという意見が出た。



ふせんに書かれた意見

- ・ 理系の道に進みたい。
- ・ 理系で、エンジニアの仕事をしたいが少し不安。
- ・ 専門学校
- ・ 得意なことを生かせる環境のある職場が理想
- ・ 語学に関する進路を選択したい。
- ・ 多分大学に行く。
- ・ 他の県で働きたい。
- ・ どちらかといえば文系

解決策

- ・ 学校のことについて詳しく書かれたパンフレットのようなものを見てみたい。（生徒の意見のついた）
- ・ 今のうちにできる準備や勉強をする。
- ・ 男女の仕事に関係なく、興味のある学校に行く。
- ・ まずは通いやすい学校に進学する。
- ・ 勉強する。
- ・ 他の県にも目を向けてみる。

【4班】

グループの意見

- 進路系と仕事系に分かれた。
- 進路系では志望校に合格したい、そのために迷ったときは、自分だけでなく周りの意見も大切にする、また周りに流されないためには、自分の考えを大切にするという意見が出た。
- 進路や将来について、まだ考えられない人がいるので、自分の個性を出して、友だちからアドバイスをしてもらおうというのも大切だと思う。
- 自分は将来したいことがあるから、大学ではなく、専門学校に進学したいという意見があった。自分の得意なことを伸ばすことができればいいと思う。
- 仕事系では、自分に合っている職業が何なのかが分からないが、スマートフォンやiPadなどで適性診断みたいなことをしてみるという意見や、仕事と家庭の両立をするのが大変だが、自分の好きなこととの両立ならできると思うという意見があった。
- AIの発達によって、職がなくなっていくことが不安という意見もあった。



ふせんに書かれた意見

- ・ 志望校に合格したい。
- ・ 周りに流されない。
- ・ 進路や将来について、考えられない人がいる。
- ・ 自分は将来したいことがあるから、大学ではなく専門学校に進学したい。大学に行かなくても大丈夫
- ・ 自分に合っている職業が何なのかが分からない。
- ・ 仕事との両立をするのが大変というイメージ
- ・ AIの発達によって、職がなくなっていくこと。

解決策

- ・ 迷ったときは、自分だけでなく周りの意見も大切にする。
- ・ 自分の考えを大切にする。
- ・ 自分の個性を出して、友だちからアドバイスをしてもらう。
- ・ 自分の得意なことをすればよい。
- ・ スマホやiPadなどで、適性診断みたいなことをしてみる。
- ・ 自分の好きなこととの両立ならできる。



（２）グループワーク（他グループの意見を聞いた上でのまとめ）

他のグループの発表を聞いた上で、再度グループ内で意見交換をし、グループごとにプランに反映させたい意見を最高３つまで選び、発表しました。

【１班】

グループ発表

- 男女で分かれることが多い。
- 委員や係決めで、男女の人数制限がある。
- 男性が町長や市長になっている。
- 上記３つとも見直してほしい。

【２班】

グループ発表

- 自由にする。
- 個人で選択できるようにする。
- 男子とか女子とかを決めつけない。

【３班】

グループ発表

- お互いを理解して得意なことを尊重し合う。
- 学校のことについて、詳しく書かれたパンフレットのようなものを見てみたい。（生徒の意見のついた）
- 一緒にできるような役割を自分たちがしてみる。

【４班】

グループ発表

- スマホやアイパッドなどで、適性診断みたいなことをしてみる。
- 迷ったときは、自分だけでなく周りの意見も大切にする。
- 時間があるときには、洗濯など自分にできそうなものを家族全員が探してやってみる。



4 参考資料／出席者アンケート集計結果

今回ワークショップに参加した生徒の皆さんに、参加した感想をアンケート用紙に記入してもらいました。

【ワークショップの感想】

問1 黒澤先生の講話で、気付いたことや学んだことはありますか？

- 最近になって、ジェンダーについて触れられるようになったんだと知った。(女性)
- やはり、男女間では大きな差があることを知った。特に政治の中で、女性の議員が少ないことは問題があるのではないかと思った。女性の意見を直接女性から聞くことで、現状の改善につながるのではないかと感じた。(女性)
- 自分たちが学校内で感じている以上に、社会の中でも男女の分担や区別があるんだなと思った。(女性)
- 現在「男女共同参画」があるけど、まだまだ浸透していなかったり男女で役割の違いがあることを知った。性についても2種類だけでなく、たくさんの種類があることを学んだ。(女性)
- 中学生と市民の人たちでは、全然感じ方や考え方が違うのだと、アンケートを通して知れた。(女性)
- 男女にはやっぱり差があるけど「男女」という枠に縛られずに生きようと思った。(女性)
- 男だからとか女だからとかを決めつけないことを学んだ。(女性)
- 家庭内の役割分担など、男性より女性の方が多く担っている。(女性)
- LGBTの友だちが、自分にLGBTのことを話してくれるのは信頼されているということ初めて知った。また、それを広めないことが大事だと分かった。(女性)
- 性の多様性について学んだ。やっぱり世の中「男・女」だけで括れないなと思った。(女性)
- 理系や文系などにも男女の壁があることが分かった。(女性)
- データによって、男女の差が少し残っているのだなと思った。(女性)
- 男女共同参画のアンケート結果が自分の考えと同じだった。よりよい社会にするために、今日考えたことが反映されてほしい。(女性)
- 男の人と女の人様々な調べで、割合の偏っているものがあつた。(女性)
- 男女の役割や進学などに差があることを統計的に知ることができた。男女共同参画ということに、さぬき市や県が取り組んでいることを知った。(男性)
- 男女共同参画社会の資料で、男女で違いが大きいことや中学生の考えと自分が違うことについて理解を深めることができた。(男性)
- 性の多様化により、自分らしく生きられると分かった。(男性)
- 社会で、男女の区別などしてしまうことがおかしいと思った。(男性)

問2 ワークショップで、気付いたことや学んだことはありますか？

- 女性は家事、男性は仕事と分かれているなと思った。（女性）
- 自分と異なる意見を知ることができて、考えが深まった。（女性）
- みんな就職先はまだ明確に決まっていないものの、大学まで進学したいという意見が多かった。また「AIにとらわれない職業」というワードを聞いて「自分がしたいもの」で「継続できるもの」となると、職業選択が難しいなと思った。（女性）
- 各学校や学年の中でも、校則やルールが違っていて、男女の区別があるところもあるが、だんだんとそれが改善されている部分もあると感じた。（女性）
- 意見を交換していくうちに、自分の考えを深めることができたので意見を交換するのは大切だと感じた。（女性）
- ほかの中学校のことについて知ることができ、自分たちの中学校でも生かせそうだなあと思った。（女性）
- 一人ひとりで違う意見を持っていて、それぞれを尊重しようと思った。（女性）
- 他の人の意見を聞いて、学校や地域での男女の違いを学んだ。（女性）
- どの学校でも、男性より女性の方が積極的に行事などに参加していること。（女性）
- 他の学校の人と話すことで、他の中学校で取り組まれていることが分かった。（女性）
- 他の学校の同学年、他学年の人と交流ができて、一人ひとりの考え方、感じ方、意見の違いを知ることができた。（女性）
- まだ、男女の差はたくさんあることに気づいた。（女性）
- 自分の意見と少し違った意見を聞くことで、たくさん考えることができた。（女性）
- 初めは不安なこともあったけど、初めの自己紹介で少し班の雰囲気が良くなったので、楽しかった。学年に関係なく話せることができ、楽しかった。（女性）
- 男の人は力仕事が多く、女の人は細かい仕事が多い、男子は重い荷物（テキスト）を運び、女子はそれを配るなど、なんとなく役割が決まっている。（女性）
- 自分が気づかないところで、男女の役割の差があったので、少し意外に思った。将来について、周りの人の意見が聞けて、ためになった。（男性）
- 他の中学生の思いや考え方を知ることができ、自分のことに生かすことができると思う。（男性）
- 男女に関係なく、家事をしようと思った。（男性）
- 家などで家事をしているのは女性が多かったことや学校でも男女で分かれることが多いこと。（男性）



問3 男女共同参画について、自分だったら何ができると思いますか？

- 最初にできるのは、家事の役割分担だと思う。班の全員が共通で挙げていたことであり、改善策も「役割をしっかりと分担」と出っていたので、家族間で話し合っ、家族みんなで家庭を支えていきたい。(女性)
- 自分の意見を人に伝え、周りに流されないこと。男女の壁を作らず、みんなで仲良く生活することなど。学校でできる小さな気遣いや心がけを大切にしたいと思った。(女性)
- 家庭の中でも男女の差があることを知ったので、まずは身近な家庭内で男女の差をなくしていきたい。(女性)
- 男だから女だからとかなど、小さいことかもしれないけれど、自分の中での差別や偏見をなくしていこうと思った。(女性)
- 周りをよく見て、様子がおかしい子がいたら、相談を聞いてあげたりできると思った。(女性)
- L G B T Qの人がいたら、その人の気持ちを理解すること。(女性)
- 自分に合った職業は何なのかを地道に考えていくこと。(女性)
- 家事をすべて親に任せず、自分もできることをしようと思う。(女性)
- 同性を好きになることについて、何も思わないようにする。(女性)
- まずは身近にいる人たちの個性を尊重して生きていきたい。(女性)
- 男女に関係なく関わったり、役割を果たしたりしたいと思った。(女性)
- 積極的に男子と協力して仕事をする。(女性)
- 自分の固定観念を捨て、いろいろな仕事を知り、自分の得意なことを伸ばしていきたい。(女性)
- 学校や家などで、男子女子に関係なく協力して作業する。(女性)
- 男女平等、役割分担を意識する。(男性)
- まず、自分にできそうな家庭の仕事をやっていこうと思う。また、進路についても、深く取り組んでいきたい。(男性)
- 人の外側ではなく、内面に目を向けることによって、一人ひとりが能力を十分に発揮できると思った。(男性)
- 自分がやっていないことも進んでやること。(男性)



問4 今日の感想や心に残ったことを自由にご書いてください。

- 男女差別を完璧になくすことは難しいかもしれないけど、一人ひとり、いろんな人がいるということを知れば、考え方は変わるんじゃないかなと思った。(女性)
- 今は女性の方が、やや劣勢と感じている人が多いが、私たちが大人の代になるときは、その考え方は変わっているのではないかなと思った。少しずつではあるが、改善傾向にあると思う。(女性)
- 一人一人思っていることが違う部分もあれば、同じところもあって、違う学校だからこそ、いろんな意見を知ることができて良かった。テーマを通して、いろんな話ができ楽しかった。(女性)
- 初めて会う人がほとんどだったけど、自己紹介等で緊張がほぐれ、楽しく活動できた。(女性)
- 最初はとても緊張していて、グループで意見が出るのが少なかったけれど、自分が思っていた意見とは違う意見に触れることができてよかった。(女性)
- 将来や高校進学への不安はいっぱいあるけど、一つずつ、ゆっくり自分で決めていこうと思えた。(女性)
- 学校で男女を分けている校則の見直しがあったり、平等に生きるためにより良くしようというプランがあったりして、世界を今よりもっと良くしようとしていることが分かった。(女性)
- 将来の職業や進路について、みなさんちゃんと考えているんだなと思った。私も考えていかなければ！(女性)
- 初めは他の学校の人と話すのに緊張したけど、意見を出し合うことで話しやすい場になったと思いました。また、自分の考えになかった意見を聞いてよかった。(女性)
- みんなのいろんな視点からの話が聞いて楽しかった。(女性)
- 男女の差はあまり問題ではないと思っていたけど、実際は、自分も偏見を持っていたことに気づいた。はじめから「男はこう」や「女だから」という偏見を持たずに過ごしたいと思った。(女性)
- こんなに大きな経験をさせてくださり、ありがとうございます。たくさんの意見を胸に、また新たに前進していきたいと思う。(女性)
- 他の中学校の人と交流することで、自分と違う意見がたくさん出て面白かった。特に自分の推しを書くのが楽しかった。(女性)
- 「男の人と女の人には不思議な壁がある」という意見を聞いて、確かにと思った。(女性)
- 知らなかったことや気づかなかったこと、勉強になったことがたくさんあった。今日、ワークショップに参加して良かったと思う。これからの将来や社会について、もっと深く考えてみたい。(男性)
- 他の中学校の子と話すことで、自分の意見の解決策を分かることができてよかった。(男性)
- 個人で選択できるようにすれば、誰もが苦しみのない世界を作れるようになると思った。(男性)
- 自分にはなかった意見などをたくさん聞いて、とても勉強になった。自分が就きたい仕事など、いろんな理由があって心に残った。(男性)